

令和6年度(2024年度) 第4回 函館市地域学校協働活動連絡会議 会議録

日 時	令和7年2月26日(水) 10:00～12:00
場 所	南北海道教育センター大会議室
参加者	【地域学校協働活動推進委員】 工藤委員, 梅田委員, 京谷委員, 酒井委員, 齊藤委員, 三好委員, 高田委員, 吉村委員, 干山委員, 阿久津委員, 中村(和)委員, 郷六委員, 神田委員, 田中(慎)委員(計14名)
事務局	小棚木学校再編・地域連携課長, 田口主査, 石川主任主事, 吉田学校教育指導監(4名)
傍 聴	なし

1 開 会

(事務局)

本日はご多用の中, お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので, ただいまから, 令和6年度(2024年度)第4回函館市地域学校協働活動連絡会議を開会いたします。

本会議につきましては, 函館市情報公開条例第26条の規定に基づき原則公開となります。本日の議事等につきましては, 非公開となる内容がないと考えられますので, 全ての会議が公開となりますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

会議終了後には, 発言要旨を取りまとめた会議録を作成し, 公表することとなっておりますので, ご承知おきください。会議録につきましては, 後日, 発言された委員全員に確認していただく予定であります。

本日の配付資料について, 確認させていただきます。

(配付資料について確認)

ここからの司会・進行は工藤座長にお願いします。

2 行政説明

(工藤座長)

それでは, 次第に基づき進めたいと思います。

まずは, 次第2の行政説明につきまして, 事務局から説明をお願いします。

(事務局)

私からは、地域とともにある学校づくりについてお話しいたします。

(※ 資料に沿って説明)

3 青森市学校運営協議会・地域学校協働活動に係る事務連絡会議について

(工藤座長)

続いて、次第3の青森市学校運営協議会・地域学校協働活動に係る事務連絡会議について入りたいと思います。事務局から進行をお願いします。

(事務局)

(※ 資料に沿って説明)

4 今後の方向性等に係る検討について

(工藤座長)

続いて、次第4の今後の方向性等に係る検討に入りたいと思います。

皆さんから今年の振り返り、課題、来年度の方向性について、話していただければと思います。

(神田委員)

先ほどの説明資料の中にあった内容で、皆さんにお伺いしたいのですが、学校運営協議会の中で、学校がどういう形で子どもたちを育てていく、どういうふうに関わっていくといった話し合いの場で、学校によって違いはあると思いますが、地域コーディネーターとしてその場で意見するなどの話しがされているのでしょうか。私のところは、学校運営協議会は校長先生の運営方針を聞いて承認したり、今後こんなふうなにしていこうということを学校とともに地域コーディネーターとしても話す機会があり、その後、別の実行部隊となっているところでもっと細かいところを話し合っています。このような組織があるところとないところがありますし、学校運営協議会が実行部隊になっているところもありますので、他の協議会ではどのように会を進めているのかお聞きしたいです。地域コーディネーターとして、学校運営協議会で地域とともにある学校づくりをしていくためには、皆さんにどう協力していただきたいと伝えているのかも伺いたいです。

(工藤座長)

学校の目標と方針にどのように関わっているかという質問ですが、いかがでしょうか。

(酒井委員)

私たちも学校運営協議会では、一番大きな話し合いの場として色々な話し合いをしており、年に1回だけですが、その中で自分たちの地域としてはどう思うとか、ボランティアをしている人たちは学校にどのような思いがあるだとか、そういう話をしています。

私からも質問なのですが、私の配置校もマンモス校で、町内会が全部で24程ありますが、私自身、活動する際に、その24町会を全部回ったり、声をかけたりというのは無理だと思っています。一度全ての町会に声をかけて防災に関することを実施しましたが、とても大変でした。そういう面ではどこかと連携したほうがいいと思うのですが、皆さんはどのように連携しているのかお聞きしたいです。

この会議などで、私の中学校区の包括支援センターの方からも声をかけていただいて、活動に繋がったものもあります。包括支援センター以外にも連携できる団体はあると思いますので、そのあたりをこれからどうやってつなげていけるかお聞きしたいです。

(工藤座長)

学校と地域をどのようにつなげていくかということで、皆さんはどのような取り組みをされていますか。

(干山委員)

学校が目指す学校運営を共有する場が学校運営協議会で、神田委員が言っていた実行部隊が地域学校協働活動だと思っています。地域学校協働活動をするために別に組織を作って、その中に町会などを入れたら一回で話ができると思いますし、各町会に出向くわけではなくて、声をかけて、防災のイベントをやりたいので賛同できる方は会議に参加してくださいという案内だけでもいいと思います。全部が全部参加する必要もないと思いますし、その中で話し合いをする、実行するというように、コミュニティ・スクールと分けて考えた方がいいのかなと思いました。

(神田委員)

南本通小学校では学校運営協議会の下に協働活動推進委員会という組織を作っており、そこには地域コーディネーターの他に、町会、PTA、CS担当の先生も入っていて機能しています。現在の配置校でも同様の組織を作っている段階です。巴中学校は学校運営協議会が実行部隊となっていて活動を推進できているとお聞きしていますが、どのように進めているのか知りたいです。

(齊藤委員)

北中は北日吉小と合同ですが、校長先生が委員全員から意見を聞いてくれますので、かなり色々な意見が出ます。これは組織的な課題だと思っていますが、委員でも若い方は現実目線で物を考えておりますが、資料を見てすぐ承認するという方もおりますので、人選も含めての組織作りというのがこれからの課題になると思います。

(吉村委員)

巴中の学校運営協議会には色々な立場の人がいますが、みんなフットワークが軽く、大変良い関係を築けているのでそれぞれの立場から物が言えますし、役割分担もしやすく、私はとても助かっています。あえて、学校運営協議会とは別の組織を作らなくても委員全員が何かしらの働きをしています。

先ほどの資料でも出てきましたが、色々なところで当事者意識は大事だと言われていますが、「当事者意識を持ちなさい」と言われたら当事者意識は溢れてくるものなのかなと言われたら、私はそうではないと思っています。その答えを干山委員が話してくれました。なぜその活動をするのかという目的は、三者三様でいいと私も思います。それぞれどこかの部分では当事者意識はあるけれども、それが必ずしも同一の当事者意識でなくてもいいと思います。私も学校運営協議会委員でありながら、学校のことを全然わかっていなかったし、先生の気持ちも全然わかっていなかったということに去年気が付きました。何年も一緒に活動して互いに本音で話せるようになりましたが、異動で先生方は変わりますので、同じ問題意識を共有するためには一から関係を構築していかななくてはならない。そういうこともお互いにわかりつつ、当事者意識を育てていくためにも、この活動は何のためにやっているのかという一つ軸を作るべきだと思います。それが学校運営協議会でも、地域学校協働活動でも、学校が軸となるので、巴中の活動は、生徒に利益のないことはやらないという軸を決めて今に至っています。

(神田委員)

皆さんの話を聞いて納得しました。南本通小学校は協議会と実行部隊がありますが、各々の目的があります。地域は地域に若い人を呼びたいし、保護者は子どもたちのためという目的で活動しています。7年もやると目的がわからなくなってしまいますので、地域コーディネーターとしてこういう目的でしたよねって呼びかけながら毎年活動しています。巴中学校みたいにそれぞれ強みがあって、地域の学校のために子どもたちのために何かできたら自分たちも楽しいよねって思いながらやることの大切さを、皆さんのお話を聞いて改めて学びました。地域コーディネーター

は孤独な闘いが多いと思いますが，せっかく皆さんがいるので，今後も協力していききたいと思います。

（工藤座長）

地域学校協働本部がある深駒ネットの京谷委員いかがでしょうか。

（京谷委員）

私の場合は，地域学校協働本部が既にできているところに配置されたというスタートでしたが，当初は役職がある人も多く，こんな役割をお願いしていいのかと戸惑いがありました。今年度，実働部隊のメンバーを一新し，保護者や学童，主要な町会に変えたところ，今までと全く違う意見が出てくるようになり，どんな人と関わって，どんなふうに進めるかということはとても大事だと感じました。

（吉村委員）

うちの学校運営協議会委員の中にもそのような役職の方は多くて，自分だけが何も肩書がない状態ではありますが，それでも地味な仕事でもやっていただくようにしています。以前は全て自分でやっていましたが，このままでは私の役割を次の人に引き継げないと思いましたので，なるべく仕事は分散するようにしました。ここに参加したら，もうみんな同じ委員で違いがないということを意識して仕事を分担し，なるべく次の方に引き継ぎやすいようにしています。

（干山委員）

私も某会社の社長をしていますが，役職は関係なくみんなフラットです。巴中学校の委員の人選は素晴らしいと思います。資料の中で，学校運営協議会の主な機能・権限として，校長が作成する学校運営の基本的な方針を承認する，学校運営に関する事項に関する意見を述べることができる，教職員の任用に関して任命権者に意見を述べることの3つが載っています。つまりは，この3つができる人であれば誰でもいいということだと思いました。本当にこの3つのことを決められる人が委員になるべきで，その下部組織にある地域学校協働活動には色々な人が入るべきだと思います。

（田中（慎）委員）

私は市立函館高校の一人目の地域コーディネーターですが，私も次にどうやって引き継いでいくかということをすごく考えています。初代の方は心の温度が高い人の集まりなので，交代を考えた時に，この温度感をどのように継続させていくかということを考えていかなければならなく，誰かいないか探してみてもなかなか見つ

からないのではないかと思います。参考になるかはわかりませんが、市立函館高校でもおやじの会というのがありますが、うちの子どもは卒業してだいぶ経つし、他の人の子どもも30歳を超えている状態ですが、なかなか抜けられない状況です。だんだんメンバーは変わっていきますが、新しい人の中にも熱い人はいますし、そういう人がOBとして残っています。それで温度感がずっと引き継がれていっているところがあります。このコミュニティ・スクールも、継続していくためには、当事者意識なんて言われなくても当事者意識はあって当然という熱い人を残していくには、継ぎ足していかないといけないと思います。函館は地域コーディネーターが一人でやっていてすごいとなっていますが、今後は2人体制にするなどしていかないと、どこかで人が代わった時に形が変わってしまうとは思っています。

（工藤座長）

学校と地域関係機関を通じて、それぞれの学校の課題・目標に対し共通理解を持って、どのように子どもたちの課題等を改善していくかを考えていくかということはいずれも課題になっていくと思います。青柳ネットでも同じような課題を抱えており、校区内に23もの町内会があるので、全部に学校運営協議会の活動を理解してもらうのはなかなか難しいと思っています。

学校運営の方針についてですが、1回目の学校運営協議会で4校それぞれの校長から説明があって委員が承認をするのですが、青柳ネットでは豊かな心の育成を共通の目標として、地域を理解してその地域の皆さんとの触れ合いを通じて豊かな心を養っていくということを共通の理解としています。令和6年度はそれに従って地域ボランティアなどの取組をしてきたところです。しかし、活動を進める中で、なかなか理解してもらえないところもあり、学校運営協議会の人選というのも大切になってくるのかなと思います。また、活動を継続する上で学校関係者でないと難しい部分もありますので、学校運営協議会内での役割の分担も考えていかなければいけないと思っています。

では、事務局にお返しします。

5 閉会

（事務局）

工藤座長，ありがとうございます。本日の第4回の会議につきましては，ご出席の委員の皆様のご協力により，滞りなく終了することができました。感謝申し上げます。

続きまして，学校再編・地域連携課長 小棚木より，ご挨拶させていただきます。

（学校再編・地域連携課長）

地域コーディネーターの皆様におかれましては、今年度も各校で特色のある地域協働活動を進めていただきましたことに、改めてお礼申し上げます。

また、来年度も、地域コーディネーターとしてご活動いただける皆様には引き続きよろしくお願いいたします。

今年度をもってご退任されることとなりました委員の皆様には、今日まで大変ご尽力いただき、誠にありがとうございました。今後も健康にはお気を付けてご活躍を祈念いたします。4名の委員が変更となり、寂しくなりますが、来年度も、新しく地域コーディネーターに就任される方もおりますので、新しい地域コーディネーターとも連携しながら、今回ご退任の皆様が進めてきた活動を次の世代へつないで行けるよう取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

（事務局）

以上をもちまして、令和6年度(2024年度)第4回函館市地域学校協働活動連絡会議を終了いたします。本日はありがとうございました。